

# 第2回 トレーナースキルアップセミナー

## ● 開催報告 ●

### 1. トレーナースキルアップセミナーについて

SEAJ 推奨サービス安全教育は2002年から教育を開始し、今年で10年を超えました。その間各社で実施される教育およびオープンスクールで実施される教育により、すでにのべ3万人を超える方に受講して頂いております。そして、約300名を超えるトレーナーと35名のマスタートレーナーにより、SEAJ 推奨サービス安全教育は推進されております。

このSEAJ 推奨サービス安全教育の推進役であるトレーナーの質を維持し、さらに向上させることを目的に、昨年度第1回トレーナースキルアップセミナーを開催しました。昨年の参加者アンケートで、ほぼ全員の方から役に立った、次回も参加したいとの意見を頂き、今回第2回目のトレーナースキルアップセミナーを開催するに至りました。

トレーナーが安全教育を実施するにあたり、更に充実した教育を実施して頂く為にどんな情報をトレーナーに提供すれば良いか検討した結果、第2回目は保護具に焦点をあて、トレーナーの保護具に対する知識を深めて頂くことに主眼をおいて開催することにしました。ミドリ安全様の多大なご協力のもと、午前中はミドリ安全草加テクニカルセンターの見学を行い、午後は来賓の講演に続き、「保護具の必要性をどのように受講者に伝えるか。」をテーマとしたワークショップという、一日のプログラムで開催しました。

### 2. 開催情報

日時 2013年2月8日(金) 10:00~17:00  
場所 ミドリ安全株式会社 草加テクニカルセンター  
参加者 35名(来賓1名、トレーナー16名、委員15名、事務局3名)



会場の様子

### 3. プログラム

- ①開会の辞：石川 法照委員
- ②主催者挨拶：塩出 広副委員長
- ③ミドリ安全草加テクニカルセンター紹介：  
ミドリ安全株式会社 亀田 義之様、粟飯原 幸三様
- ④ミドリ安全草加テクニカルセンター見学：ミドリ安全様
- ⑤午後の開会宣言：若林 寿一委員
- ⑥来賓講演：インテル株式会社 野島 孝夫様
- ⑦安全教育専門委員会からのお知らせ：石川 法照委員
- ⑧ワークショップ 進行：富田 和英委員  
テーマ「保護具の必要性をどのように受講者につたえるか」
- ⑨閉会の辞：若林 寿一委員
- ⑩SEAJ 事務局からののお知らせ：塩崎 篤事務局長
- ⑪懇親会

### 4. ミドリ安全草加テクニカルセンター見学

四つの班に分かれ、テクニカルセンターの安全靴評価試験設備の実演、ヘルメット評価試験設備の実演、各種保護具(ヘルメット・保護メガネ・マスク・安全帯・LOTOシステム)の展示およびデモンストレーションを順番に見学しました。



見学の様子

安全靴については、安全靴の歴史から機能の進化の説明を聞き、また評価試験を実演して頂きました。ヘルメットについては、正しい装着方法や耐用年数等の説明を聞き、数々の試験方法の説明および実演を見学できました。各種保護具の展示では最新の保護具の紹介や、装着方法や装着確認テストなどを体験でき今後の安全教育に大いに役立つ経験が出来ました。

### 5. 来賓講演：ケガのない職場の創出

(インテル株式会社 技術開発・製造技術本部 ウェーハプロセス装置部 野島 孝夫様)

インテル株式会社 野島 孝夫様より「ケガのない職場

の創出」と題して講演して頂きました。

ケガのない職場とは、すべての従業員が入社した時と同じ状態で退社すること、さらには前日帰宅した時と同じ状態で帰宅してくること、非常に明快なメッセージを頂きました。

安全は優先事項ではなく、安全は価値であるという認識に立つことの重要性。ケガのない職場を創出するためには、ひとり一人の考え方と行動を変える必要がある事。

ケガは無くせない、仕事にケガは付きものという感覚から、すべてのケガは防止できるというパラダイム転換が必要であること。安全は規則だから守るというのではなく安全に働くことを選ぶ、遵守ではなく選択の意義など、安全



来賓の挨拶

ケガのない職場を創出するためには？

- 考え方を変える(3)
  - 「規則だから従う」のではなく、「安全に働くことを自ら選ぶ」

「遵守」  
↓  
「選択」

Copyright © 2013 Intel Corporation. All rights reserved. 無断での引用、転載を禁じます。

ケガのない職場とは何か？

- 次の目標を掲げた職場である
  - すべてのケガを防止すること
  - すべての従業員が、入社した時と同じ状態で退社すること

Copyright © 2013 Intel Corporation. All rights reserved. 無断での引用、転載を禁じます。

ケガのない職場で期待される行動

- 「すべてのケガは防止できる」という考え方と行動の手本となること
- 安全を価値として推進すること
- 「規則だから従う」のではなく、「安全に働くことを自ら選ぶ」こと
- 「不安全な状態」や「不安全な行動」を発見したら、放置せず、改善・指摘し、それらを除去すること

Copyright © 2013 Intel Corporation. All rights reserved. 無断での引用、転載を禁じます。

ケガのない職場を創出するためには？

- 考え方を変える(2)
  - 安全は、優先事項ではなく、価値である
  - と考える

「安全第一」  
↓  
「安全は価値」

Copyright © 2013 Intel Corporation. All rights reserved. 無断での引用、転載を禁じます。



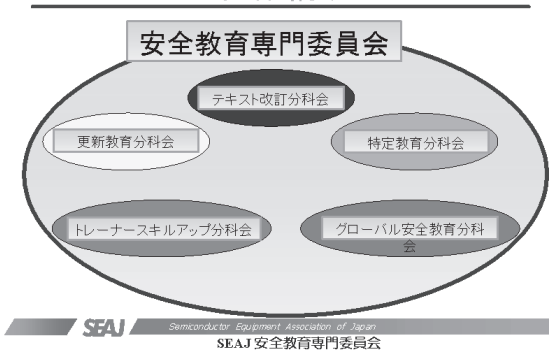
確保には強い意志が必要であることを強く語って頂きました。

安全教育に携わっている者が、従業員にケガをさせない為は何をつたえ、何をすべきかを考えて教育を実施してゆくエッセンスをたくさん頂きました。

## 6. 安全衛生委員会からのお知らせ

今回参加して頂いたトレーナーの方達へ、安全教育専門委員会からのお知らせとして、SEAJ 推奨サービス安全教育の現状と安全教育専門員会の活動状況と共に、今後の安全教育専門委員会の活動についてご案内をしました。特筆すべきこととして、SEAJ 推奨サービス安全教育のグローバル展開についての活動が開始したということがあります。半導体の生産現場が海外にシフトしている昨今、海外現場で働く作業員の安全確保を考えて行く上で、安全教育の海外展開について、早急に検討が必要となっております。詳細については、今後本専門委員会の中に新設したグローバル安全教育分科会で、検討を進めてまいります。

### 組織構成



### 最後に

#### 安全教育専門委員会では

今後更に安全教育の普及と労災未然防止に努める

グローバル展開に向けた活動推進



そのために



トレーナー資格保持者の皆様とのコミュニケーションをはかり、進めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

SEAJ Semiconductor Equipment Association of Japan  
SEAJ 安全教育専門委員会

## 7. ワークショップ【テーマ：保護具】

「保護具の必要性をどのように受講者につたえるか。」をテーマに、ワークショップを行いました。

四つのグループに分かれ、ヘルメット・安全带・保護メガネ・安全靴のテーマをそれぞれのグループに割り振り、安全教育においてそれらの保護具の必要性を受講者につたえる為にどうすれば良いかを議論しました。

各グループにはマスタートレーナーも入り、現状把握・本質追究・対策樹立の各ラウンドを踏まえて議論しました。異なる企業のトレーナー同士、各社の現状や対策や実施事例などを共有し議論を進めるなか、保護具に関する質問を会場に待機して頂いたミドリ安全の方に確認しながら議論できたことは、非常に有意義だったと思います。昨年度の反省点として、議論の時間不足が有りましたので、今回は議論に十分な時間を取りました。その後各グループの代表者に発表して頂き、全員で内容をさらに練り上げました。



ワークショップの様子

ワークショップの発表で出たいくつかの意見をご紹介します。

#### ■現状把握

- ・ベテランがヘルメットを装着しない。
- ・安全带を準備しても、フックポイントが無い。
- ・上司の考え方によって、職場の安全意識が変わる。



- ・共用する保護具は、付けたくない。

#### ■本質追究

- ・ケガをする可能性が無いと思っている。
- ・装着しづらい。
- ・国によって、基準が異なる。
- ・ユーザールールと自社ルールが異なる。
- ・レンズが曇る。

#### ■対策樹立

- ・作業者へ、教育ビデオを見せる。
- ・実体験の教育システムを実践している。
- ・個人持ちの保護具を準備する。
- ・事故被害の大きな事例を見せる。

### 8. アンケート報告

今回の第2回トレーナースキルアップセミナーについて、参加者からのアンケート回答をいくつかご紹介いたします。

- ・保護具は次々と進化している。常に新しい情報の入手が必要である。
- ・ミドリ安全草加テクニカルセンターの見学ができたことは良い経験になりました。
- ・半日見学、半日ワークショップでちょうど良いスケジュールだと感じた。
- ・他社のいろいろな情報を共有出来て良かった。
- ・トレーナーの皆さんの安全に対する意識の高さが伺えた。
- ・フルハーネスの安全帯、思ったより装着が簡単であった。
- ・自社で安全教育の見直しと保護具の実技を取り入れていきたい。

また、今回参加されたトレーナーの方達のコミットメントの一例です。

- ・事故事例を出来るだけ取り入れ、分かり易く伝えたい。
- ・実体験を交えた教育をしていきたい。
- ・ケガのない職場を創出していきたい。

他にも多くの貴重な意見を頂きました。次回の開催に向け、出来る限り取り入れられるよう検討させて頂きたく思います。

### 9. まとめ

第2回トレーナースキルアップセミナーは、ミドリ安全様の多大なご協力のもと、保護具の検査方法や安全性について、実際に見て体験することが出来ました。また、保護具の展示説明会を開催して頂き、詳しい説明と、日頃疑問に思っていたことの確認が出来たこと等、参加トレーナーは今まで以上に保護具の機能や性能についての理解をえられたものと思います。安全は価値であるとの熱いメッセージも頂きました。今後も SEAJ の安全教育専門委員会は、安全教育の振興とトレーナーの方への情報発信を行うことで、各社の事故ゼロへの支援に繋がるよう活動してゆきたいと思っています。最後に、本セミナー開催にあたり、ミドリ安全様をはじめ多大なご協力を頂きました皆様に感謝申し上げます。

(安全教育専門委員会 トレーナースキルアップ分科会  
とみた かずひで  
富田 和英)